

ビジネスモデル

電動マイクロモビリティ × ポート型シェアリング

LUUPとは、アプリ内で電動モビリティを探し、決められた中の好きな場所で借り好きな場所で返すことができるサービスです。



ポートサイズ
・奥行き 0.75m
・横幅 1.5m
(自販機約1.5台分)

CONFIDENTIAL

Copyright 2019 Luup, Inc.

第121回 かわさき起業家オーディション 「かわさき起業家優秀賞」受賞

電動マイクロモビリティの シェアリングサービス「LUUP」



株式会社Luup

代表取締役
岡井大輝

「LUUP」は、電動マイクロモビリティ（超小型・軽量の車両）をアプリ上で貸出・返却ができるシェアリングサービスです。「LUUP」の乗り物の1つである電動キックボードは徒歩15～30分の「徒歩だと少し遠い」移動距離を解決する、エコで快適な世界で最も乗られているマイクロモビリティです。電源を入れた後、2、3回地面を蹴り簡単なハンドル操作で乗れるため、誰でも簡単に乗ることができる。「電動キックボード」以外にも、低速で椅子がついている高齢者用の「低速電動ウィールチェア」などを世界で唯一取り扱っています。

「LUUP」の電動マイクロモビリティにはGPSと安全制御装置を搭載しており、人が集まる場所では速度を制限したり、危険運転に対して注意喚起をしたりすることが可能です。電動マイクロモビリティの普及は、安心・安全で新たな移動手段の提供と商圏拡大への寄与につながるとして、社会全体への影響力の大きさや高い社会的貢献性が見込まれています。

■ ビジネスに至った経緯

私は創業当初、主婦や元介護士がスポットで家庭の介護活動をお手伝いする「介護士版Uber」の事業を行ってまいりました。この事業は実体験が発想のもとになっています。祖母が認知症だったのですが、肉体的には問題がなかったため、国が提供する保障には限界がありました。それらを補うため、「介護士版Uber」の事業を立ち上げたのですが、力不足により頓挫してしまいました。ですが、この事業を展開していく中で、日本の交通インフラがC to Cに不向きであることを実感しました。今後「人口減少時代」ではC to Cのマッチングサービスや配達系サービスの増加が見込まれています。それらのサービス普及のカギは、日本の交通における課題を解決する新たな交通インフラの確立が必要です。これらを解決するインフラ事業をやろうと考え、マイクロモビリティのシェアリングサービスという事業にたどり着きました。

■ サービスの特徴

最大の特徴は自治体と連携していることである。マイクロモビリティが利用者および住人双方にとって安心安全な乗り物となるためには、利用可能区域や危険区域の特定など、自治体と共に考えていくことが必要なことから、静岡県浜松市、東京都多摩市、奈良県奈良市、三重県四日市市、埼玉県横瀬町、東京都渋谷区と連携協定を締結している。キックボードをはじめとした電動マイクロモビリティ全般を取り扱っているが、他の事業者は全世界統一の機体を使用しているなか、当社は日本人の体型を考慮した機体をOEMで製造している。また、自治体から頂いたアドバイスのもと、日本の道事情に適した機体として遠隔速度制限システムや、危険運転探知システムといった独自のシステム搭載を予定している。安全面の制御に関しては顧問、経営陣として、世界最大手の自転車シェア企業やアジア最大手の電動キックボードシェア企業のプロジェクトマネージャーが参画しており、アドバイスをいただいているほか、電動マイクロモビリティ推進協議会を国内事業者と共に設立し、新たなマイクロモビリティ技術の社会実装のための取り組みや安全ガイドラインの制定などが進められている。

このように安全性の高い二輪キックボードや、世界で唯一シェアリング用に開発・展開している高齢者向け四輪モビリティを、アプリを介して好きな時に好きな場所から利用でき、1乗車あたり、電車賃同等の100円~200円でのサービス展開を想定している。

二輪キックボードは一般市民の日々の移動や、急増するインバウンド向けに展開する。日本の商圈は駅を起点として広がっており、駅から徒歩10分以上かかるエリアは時価が下がることが一般的である。快適に乗れる二輪の電動キックボードであれば10分での移動距離は拡がり、結果的に人々の活動範囲が

拡がることで、駅から遠いエリアの経済興隆に繋がる。

ラストワンマイルの移動であれば、電動キックボードに慣れ親しんだインバウンド客の移動手段にも繋がる。海外では電動キックボードは広く普及しており、G20加盟国の内、イギリス・日本・中国以外では日常的な移動手段として利用されている。特に近年は海外から日本への観光客数は増え続けており、日本政府観光局の発表では2019年には3,188万人と発表されています。2020年度には4,000万人を見込んでいるなど、今後も日本へは多くの外国人観光客が見込まれており、それらの人々の利用も見込まれる。

三輪もしくは四輪の低速モビリティは高齢者や買物難民の移動用に展開する。高齢者による交通事故はこの10年で1.5倍になっている。高齢者がバスや電車などの公共交通機関ではなくマイカーを利用するのは、ラストワンマイルの交通手段が乏しいことが一因である。今後も高齢化社会が進む中で、自立はできるが足腰に自信のない方などには三輪もしくは四輪で安定性が高く、低速で安全に移動できるモビリティを提供することで解決を図る。

■ 今後の展開

電動キックボードは原動機付き自転車（以下原付）扱いとなるため、そのままの状態では公道を走ることができない。公道で運転する場合、ナンバープレート、ミラー、運転免許証、ヘルメットが必須である。上記の条件を満たせば公道を走ることが可能だが、時速20km前後のキックボードで公道を走るとは非常に危険性が高い。

私有地では規制がないため、倉庫、工場、リゾートホテル、ゴルフ場などに電動マイクロモビリティを導入し、ご利用いただくリースサービスを展開しており、既に複数の私有地で導入済みである。今後のさらなる利用拡大を目指している。

公道で展開する場合、原付と同様に車検を通す必要がない。そのため、事故が起きた際には商品を提供している事業者が業務停止命令を受ける可能性がある。原付特有の二段階右折などの法律の問題もあることから、原付扱いのままシェアサービスを展開することは難しいと考えている。このため、基本的な姿勢としては規制緩和により電動アシスト付き自転車と同様に軽車両として認められることを短期的な目標とし、その後サービス提供を開始するとともに、エリアを拡大していきます。

会社名：株式会社Luup

住所：〒150-0002

東京都渋谷区渋谷2-6-6

メールアドレス：contact@luup.co.jp

ホームページ：https://luup.sc/